

宿縁

九月号

今こそ 正しく

浄土・地獄を教えよう



今年の夏も小学生の子どもたち49名がお寺の1泊2日の合宿に集まってきました。いつもながら本堂ではお経のお勤めにみんな大きな声で「阿弥陀ほとけをおがまん！」と唱和する声の響きに胸がじんとしました。

いま、おとなたちはお経を唱えるどころか掌を合わすことすらしない日々の生活を思うと、子どもは純粋な気持ちをもってのんだなとつくづく感じます。手元に本願寺派で発行している「こども新

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

浄土真宗
本願寺派

中原寺

TEL 0477-372102
FAX 0477-372102

聞8月号」の今月のことば「聞こえるものはすべて仏さまの教え」が目にとまりました。

まえだすみよさんがこんな文章を載せています。

「お浄土には、ビヤッコウ・クジャク・オウム・シヤリ・カリョウビンガ・グミョウチョウという、色とりどりの珍しい鳥がいます。その美しい鳴き声は、まるでお説教のように聞こえるそうです。それを聞いた者たちは、仏さま、仏さまの教え、教えをよるこぶ仲間を思いおこすのです。」

私たちの周りにもさまざまな鳥がいます。動物園に行けば、クジャクやオウムに会えます。家の外に出れば、カラスやヒヨドリがいます。その鳴き声をお説教のように聞こえるでしょうか。ありがたい気持ちになるでしょうか。私の場合、外でカラスが鳴くと、ゴミが荒らされているのではと気になります。朝早くヒヨドリが鳴くと、「まだ寝ていたいのにうるさいなあ」と思ってしまう。けれども、カラスやヒヨドリの鳴き声も、ひよっとしたら、ありがたいお説教かもしれません。皆さんにはどう聞こえますか？

今回の合宿の中で子どもたちには、ちょうど本堂の内陣に入って前卓にある浄土の

鳥たちの彫刻を説明しました。特にグミョウチョウ（共命鳥）が関心を引きました。

一つの身体で二つの頭の姿は奇異ですが、深い意味を示しています。一つの身体に二つの頭は、この世においては、極めて親しいもの同士が傷つけ合う、殺し合う、私たちの姿です。親の遺産を巡って兄弟同士が争う姿、親が親権を放棄した子殺し、子が親を殺す等、いがみ合う世界です。しかし浄土では、争うこともなく、仏の教えを説き、人を仏法に導く鳥として描かれています。その鳥の鳴き声は、「他を滅ぼす道は己を滅ぼす、他を生かす道は己を生かす道」と説いていると言われます。他を認め合う世界が浄土です。

浄土や地獄の世界は人間絶対主義に毒された現代人にはいよいよ嫌われる空想の世界としてしか映らないようです。しかし人間絶対主義とはただ妄念妄相に支配された哀れな生き方だといえます。

自分という存在がなんであるのかまったく分からない、つまり私のご都合で生きている有頂天（うちょうてん）の世界なのです。

九月初めに日本橋の三井記念美術館で催された「地獄絵ワンダーランド」源信の往生要集展」を観てきました。往生要集は念仏の教えを伝えた浄土教の第六祖源信僧都（九四二〜一〇一七）が著した書物で、地獄に堕ちる世界を克明に記し、人間の罪業の身を知らせ浄土を願生することを勧めました。その地獄相を描いた図は時代の変遷の中で人びとの心に深く伝えられてきました。

右の地獄絵の展示品の中に「南無地獄大菩薩」と書いた有名な白隠禅師（一六八五〜一七六八）の墨跡が印象に残りました。同時に

衆生有碍（うげ）のさとりにて

無碍（むげ）の仏智をうたがえば

曾婆羅頻陀羅（ぞうばらびんだら）地獄にて
多劫衆苦（たこうしゆく）にせずむなり

という親鸞聖人の和讃の一首が思い起こされました。

この和讃は、人間の限られた理解力を持つて、広大な仏の智慧を疑い誇るものは、地獄の中でも最も苦の激しい地獄に堕ち永いながい間、苦を受けなければならぬと誠められます。

仏の教えを信ずることを妨げるものに、その一つは、目に見えるものが一番たよりになると思う心です。財産やお金、健康や、親子や妻などが、人生にとって一番価値があるものと思っている限り、仏の教えに入ることができないでしょう。また第二に、自分は頭がよい、自分の考えは間違いないと、自分の知る力、考える力のみを信ずる人もまた、「衆生有碍のさとり」です。自分の愚かさに気づかされ、自分の驕慢さに気づかされ、自分の小ささに気づかされて、仏の智慧のはたらきを仰がせていただくのです。

今生命を絶たなければならぬほどの苦しみを持った人がどれだけいるか？不慮の事故、災難で苦しんでいる人がどれだけいるか？その苦しみの声が聞こえているか？浄土とはそこに一人安住するのではなく、今度はおもう一遍地獄に降りて、地獄の中で大菩薩たらんとする大いなる願いをあらわすのが「南無地獄大菩薩」でありましょう。

「地獄に気づいた人は少ない。地獄を脱した人はさらに少ない。しかし、人の為に地獄に降りた人は、なお、一層少ない。」と。

【寺灯雑記】

○孟蘭盆会法要と共に全戦没者を追悼

8/11

八月は72年前に広島と長崎に落とされた原爆忌、そして太平洋戦争終結。無惨にも多くのいのちが失われた決して忘れてはならない大切な月です。

当寺では政府が定めた山の日の休日8月11日に孟蘭盆会法要に併せて全戦没者追悼法要を営んでいます。

この日曇りで気温が25度と涼しい天候となった本堂では、多くの参詣者がそれぞれの憶いを心に仏説阿弥陀経と重誓偈を誦誦し、みほとけにいだかれての讃仏歌をうたい亡き方々を追悼しました。

布教使の渡辺浄道師の法話をお聞きしたあと、前任職は8月15日が母の命日であることから自分にとって8月の月は年々重い意味を感じられると話されました。

○阿弥陀さまの下に子どもたちの笑顔

8/19、20

第22回目を迎えた夏休み子ども合宿には49名の小学生が集いました。

近年応募が多いことから対象を小学生にしましたが募集人数をはるかに越えて賑やかな合宿となりました。

第1日目はあいにくの雨模様でしたが1時半から本堂でちよっぴり緊張の中に開会式。スタッフのお兄さんやお姉さん方に教えられて、静座でのお経(らいはいのうた)と

三つのやくそくを大きな声で唱和しました。今回は約半数が初参加でしたが住職さんのお話や注意事項をしっかりと聞いていまし

た。5班に分かれて抹茶のお手前をいただき、お寺のお内陣の彫刻や阿弥陀さま、親鸞さま、蓮如さま、聖徳太子、七高僧の姿の説明を聞き学びました。いつも楽しみ

な「笑顔の湯」のお風呂は帰り道が降り出した雨になってお寺から車のピストン輸送となりました。また境内にしつらえたパー

ベキューの夕食会場が残念ながら会館に変更となりましたが、すっかりリラックスした仲間とおしゃべりしながらわいわいがや

がやお肉を美味しくいただきました。班別対抗ゲームのあとは夜のおつとめと続き、会館(女子)と客殿(男子)いっぱい敷

いたふとんで眠りにつきました。2日目は眠い目をこすりながら6時半に起床、みんなでふとんをたたんでからラジ

オ体操と掃除、朝のおつとめと食事と進みました。午前から午後にかけては歌の練習やお寺でなぞときを楽しみました。あつと

いう間に2日間の日程が過ぎ2時から本堂で閉会式に移りました。覚えてお経をしっ

かりした声で唱和し、一人一人に住職さんから修了書が手渡されました。最後はお迎いの保護者の前で練習した歌

「365日の紙飛行機」を披露し温かい拍手喝さいを浴びました。面倒を見てくれたスタッフ11名のお兄

さんお姉さんたち、それにいつもお手伝いをいただく婦人会・壮年会の方々ありがとうございました。感謝申し上げます。

○全国仏教壮年東北大会に参加

9/2、3日

第22回全国仏教壮年東北大会が「トー

クネットホール仙台」を会場に開催され、約1300名が全国から集い当寺から石井保

さんと入月正さんの2名が参加しました。東日本震災被災地の現在を知る目的で、

記念講演は被災された専念寺住職足利一之師から生々しいその時の様子や現在の復興状況を聞き、立ち上がる力と復興の困難さを学びました。

○賑やかに婦人会「讃寿の集い」

9/2

36名の会員が参加して昼食を共にしながら「讃寿の会」を開きました。本堂で前任職さんから「老いとは衰弱ではな

く、成熟することです」との日野原重明医師の言葉を引きながら、聴聞を通してこそ阿弥陀仏の無量寿を讃える真のいのちをいただく身となることとお話を伺いました。

また日本舞踊やゲームに興じ、秋の童謡唱歌を唄って楽しみました。

【親睦旅行参加者募集中】

◇親鸞聖人ご旧跡参拝の旅

*日程：10月24日(火)～25日(水)

北茨城磯原温泉(1泊2日)

・参加費：二万円(全行程観光バス)

・申し込み：9月末日まで

親鸞聖人常陸在住の時の門弟明法房、順信房開基の寺々を巡ります。

◇スリランカ国世界遺産仏蹟の旅

*日程：明年3月4日(日)～10日(土)

・成田～コロンボ往復直行便(5泊7日)

・五つ星ホテル利用

・旅行代金概算 297,000円

(1人で一室利用の場合)

245,000円

(2人で一室利用の場合)

・参加希望は10月末日まで

あまり知られていないインド洋に浮かぶ島国スリランカは初期仏教が伝播した歴史あるすばらしい仏教国です。多くの世界遺産とその魅力の旅をご一緒しませんか。

【法要、行事、法座案内】

☆彼岸会法要修行

・九月二十三日(祝) 午後一時

おつとめ仏説阿弥陀経

讃仏歌Ⅱ衆会

法話Ⅱ前任職「仏法のことばは急げ」

早いもので秋風がふき夜空の月に虫の声にぎやかです。日ごろの生活を省みるとともに、彼岸会にお参りしてみ教えを聞きましよう。

○子育てサロン(パンダっ子)

九月十一日(月) 十一時～二時

お母さんと乳幼児の交流、健康アドバイス。

○和讃に学ぶ(正像末和讃)

九月三十日(土) 三時

○婦人会法座(歎異抄の味わい)

十月七日(土) 一時

○門信徒会役員会

十月七日(土) 三時半

○いのちの居場所を考える会

十月十二日(木) 十時半

【九月の掲示板のことば】

老いとは衰弱ではなく 成熟である

―日野原重明―